

～令和6年度～

# 【 園 評 価 結 果 】

よこすか めく森こども園

## 1, 園の教育・保育目標

『げんきなからだ かんがえるちから やさしいところ』

令和6年度 重点目標 「好きな人といっぱいお話しよう」

## 2, 本年度に定めた重点目標に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した園評価の具体的な目標や計画

- ①「だいすきなひと」「だいすきなあそび」を土台としながら、家族や友達、保育者とのコミュニケーションを大切にし、言葉のやりとりに重点を置いた教育、保育を展開していく。
- ②「挨拶」「会話」「絵本」3つの柱を立て、職員がグループに分かれ、重点目標に向けての具体的活動を考えていく。

## 3, 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
子どもは園での生活を楽しみ、喜んで通っている	A	子ども達が笑顔で生き生きと遊びを楽しむ姿がある 自分の好きな遊びを見つけ、のびのびと遊ぶ子が多い
子どもを安心して預けることができる	A	保護者の声にすぐに対応したり、配信や連絡帳、対話の中で、子どもの姿を伝えることに力を入れてきたことで、安心して預けてくれることにつながっている。
こども園は一人ひとりの個性を大切にし、その子に応じた温かい教育・保育がなされている	B	職員が1つのチームとして、様々な場面において話し合い、「子どもにとって」を1番に考えている。1人ひとりに寄り添った教育、保育を心掛けている。
こども園は子どもたちが好きなものを見つけ、自らやりたくなるような環境の工夫をしている	A	環境について、毎月指導案で具体的に考えてきたことで、充実した環境となってきている。戸外の環境についても、整備が進んできている。
こども園は野菜や花などを大切にしようとする心や友達を思いやる気持ちを育てようとしている	A	めくもりファームでの菜園活動が日常の活動の中に自然に行われるようになってきている。会話の取り組みから、「ふわふわ言葉」「ちくちく言葉」に関心をもち、思いやりの心を育てることにつながっている。
こども園は、子どもに対して年齢に応じた生活習慣、マナーやルールを守る態度等を育てようとしている	B	標準化まではいっていないが、1つひとつ課題が上がったときに、話し合いをして確認をすることができるようになってきた。
こども園は地域との交流、小学校との連携に努めている	A	小学校や中学校の研修に職員が出かけていく機会をたくさん設けることができた。また、フリー参観に小中の先生方にたくさん来ていただくことができ、大切にしていること、育てたい子ども像などを共有することができている。

こども園はお便り、掲示物、コドモン等を通じて子どもの姿や園の情報を発信している	A	未満児クラスについても、週1回のコドモン配信にて写真つきで日々の様子を伝えるようにしたことで、保護者の方にも発信できた。 園側の思いと保護者の知りたいことが合致していくようにしたい。
こども園は毎月の園だよりや行事、懇談会等を通じて、保護者に教育・保育方針や園目標、毎月のねらい等をわかりやすく伝えている	A	今年度は動画の配信もしており、昨年度よりも園の様子を具体的に発信する機会が増えた。 また、園内研修の取り組みにおいても、具体的な教育保育の実践を発信することができた。
こども園は送迎時の対応、面談、連絡帳等を通じて、保護者の意見や相談等、聞きやすい体制をとっている	A	まだまだコミュニケーション不足であると感じることも多いが、保護者の方からの評価は上がっている。職員がコミュニケーションをとることを意識してきた結果であると思う。
子どもは、進んで挨拶をしている	B	進んで挨拶をする子どもが増えたり、挨拶の気持ち良さを感じたりする子が増えた。しかし、まだまだ個人差も大きいので、今の活動を継続しながら、その場にあった挨拶についても伝えていく。
子どもは絵本に親しんでいる	B	園では、絵本に親しむ姿が増えたが、家庭では差が大きい。どのように家庭を巻き込んでいくかが課題である。
子どもは会話ややりとりを楽しんでいる	A	保育者が意識をして関わることで、相手の話を聞いたり、自分の思いを伝えたりする姿が増え、会話の楽しさを感じられた。 親子での会話のきっかけづくりなど、幅を広げたい。
こども園は子どもが園内で安心して生活できるように清潔、環境整備に努めている	B	ヒヤリットについて、報告だけでなく、その後の改善策について具体的に話し合い、形にするところまでをきちんと行ってきたことで、安全対策についての職員の意識が向上した。
こども園は職員、業者による遊具・施設等の安全点検や事故防止、毎月実施の地震・火災・不審者訓練等で、危機管理に関する訓練や対策に努めている	B	訓練を行うだけでなく、事後の反省をその都度行い、次回の訓練に活かしていくことができるようになり、具体的な改善点を職員で共有できるようになっている。
園で実施している子育て支援事業（保育参加や面談、家庭通信や職員との対話、預かり保育、支援開放日など）が子育て支援に繋がっていると感じる	B	保護者のニーズの把握が必要。どんな子育て支援を必要としているのかを園として具体的に考えていく必要がある。

#### 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	<p>昨年度末に職員で振り返りをし、子どもの実態に合わせ、重点目標を考え、具体策を打ち出した。その具体策について、職員が3つのグループに分かれ話し合い進めてきた。職員が主体的に園のことについて考え、進めてきたことで、「重点目標」につながる成果が見られた。具体的に3つの柱を明確にし、進めてきたことで、職員が重点目標を意識し、共通の思いで進めることができるようになった。そのことで、園での活動や子ども達の様子が具体的に保護者にも伝わり、園の方針の理解にもつながった。</p> <p>保護者からは、一定の評価をいただくことができているが、保護者への発信の仕方をさらに工夫したり、保護者のニーズを具体的に把握したりすることで、園と保護者が同じ思いで子育てを進めたり、園の活動にも積極的に参加していただいたりする関係づくりに努めたい。</p>